

ぬくもりの小さな家



家に住んでいるのはどんな人？
どんな暮らし？ 外の風のおい
や音は？ そんな空想が楽しい小
さな家や、夕闇の街！
何気ない景色が、見る人をぬく
もりでそっと包み込む。

よく見ると、どれひとつとして同じ
家はない。色や形など、それぞれに個性
があつて味がある。窓にともる明かりは
「そこに暮らす人々の気配や息づかい
を表現しました」と菅原さん。

作品はさまざまなタイプがあるが、
モチーフの中心は一貫して「おうち」。
好きなイメージを思うがまま形にした
ら自然に「おうち」になったという。そし
て、アンティークのように古めかしい風
合いに仕上げることで独特の作風を

「見る人を優しく包むように。愛お
しい人をふんわり抱きしめるように」
との思いで名付けた「Tegs」。人と人との
つながりや暮らしのぬくもり、日常
にあるささやかな幸せを、小さなおうち
から届けている。



材料は、木粉粘土、木材、石粉粘土、アクリル絵の具など。
そのほか、紙や七宝焼きなどを組み合わせて制作。



Akiko Sugawara

造形作家・彫刻家
h.u.g (ハグ)

菅原 綾希子さん

<http://hug.jimdo.com>

確立した。こうして2010年4月に
「h.u.g (ハグ)」名義での活動をスター
ト。アートイベントや個展で多くのファ
ンを魅了している。
普段は中学、高等学校の非常勤講
師を務めながら、彫刻家として作家活
動も行っている。彫刻の制作過程は「孤
独との戦い」と話す。「己を深く深く見
つめて作品に投影する。その繰り返し
です。それは、身を削るようなつらい作
業。半年から1年、全身全霊で作品と
向き合います。さらに2〜3mの大作
ともなれば体力勝負です」。苦しみ抜
いた末の達成感や、渾身の作を世に送
る喜びは大きい。その一方で、彫刻と
は別に「リラックスして楽しめるもの
づくりを」と何気なく始めたのが、お
うちづくりだった。彫刻とは対照的な
制作過程を通して「表現の幅を広げたい。
たくさんの人と触れ合い、新たな刺
激を得たい」と考えたこともきっかけ
だった。今は「h.u.g」と彫刻、対照的な
2つを両立することで「気持ちのバラ
ンスが取れて相乗効果がある」と話す。

